

第 18 回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会幹事会
議事録

1. 日時：平成 25 年 4 月 12 日（金）10：00－11：40
2. 場所：日本工学会会議室
3. 出席者：川島一彦、秋永広幸、小松生明、高草木明、但田潔、長井寿、秦信宏、持田侑宏、山本明、堀内敬、尾崎章

4. 資料

- 1) 資料 18-1：第 17 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）（川島幹事長）
- 2) 資料 18-2：ECE プログラムの開発と運用―国際競争力向上に向けて―(V7)（川島幹事長）
- 3) 資料 18-3：平成 24 年度ナノエレクトロニクス講義受講者アンケート集計結果(秋永幹事)
- 4) 資料 18-4：Tsukuba Innovation Arena(堀内幹事)
- 5) 資料 18-5：TIA ナノエレプログラム(堀内幹事)
- 6) 資料 18-6：平成 24 年度 NIMS イブニングセミナー報告(案)―抜粋（長井幹事）

5. 議事

1) 新任幹事紹介

新任幹事として、尾崎 章氏（(株)東芝電力システム社原子力事業部、技監）が紹介された。

2) 前回議事録（案）確認

資料 18-1 に基づき、第 17 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）が紹介され、承認された。

3) ECE 報告書改訂版(最終版)について

資料 18-2 に基づき、ECE プログラムの開発と運用―国際競争力向上に向けて―（平成 25 年 3 月）の V7 が説明された。名簿の訂正、英文の大文字表記から小文字表記への統一が指摘され、修正することとした。なお、来る 4 月 19 日までに修正、訂正事項を川島幹事長に連絡することとし、これをもって最終原稿として印刷、製本することとなった。

4) ECE プログラムに関する平成 24 年度成果及び 25 年度計画

（1）ナノエレクトロニクス ECE プログラム

a) 平成 24 年度の実施状況

資料 18-3 を用いて秋永幹事から産総研が日本工学会と共催した平成 24 年度のナノテク製造中核人材の養成プログラムの実施状況が説明された。合計 13 コマの講義が平成 24 年 8 月 30 日～9 月 5 日に産総研つくばセンター中央第 2 事業所で実施され、実習が行われた。このうち、2 コマは日本工学会から派遣した講師である。講義ごとに参加者数は異なっているが、平均しておおむね 20 程度の参加者があった。参加者に対するアンケート調査によれば、講義の満足度として、「大変満足した」、「ほぼ満足した」、「どちらでもない」と回答した受講者がそれぞれ 10 名、19 名、2 名であり、「や

や不満である」、「大いに不満である」と回答した受講生はいなかった。また、今後の仕事に役立つかの質問に対しては、「大変役立つ」、「役立つと思う」と回答した受講者はそれぞれ 11 名、20 名で、「分からない」、「あまり役立つとは思わない」、「役立つとは思わない」と回答した受講者はいなかった。

受講の動機としては、「実際の仕事で役立つ知識・ノウハウ・人脈を構築できそうだ」、「上司から紹介され、今後の業務に活かそう内容だと感じた」との意見が出されている。また、講義や実習終了後には、「コマ 1 でデバイス・プロセス技術に関して広く浅く全体を把握でき、各カテゴリーにおけるポイントを理解した後に各コマで新技術や現在の課題、今後の方向性といった詳細を学んでいくという流れで進められたため、非常に理解しやすかった」、「半導体百科事典かつ最新技術動向の集大成である」等の意見が出されている。

以上より、平成 24 年度の本プログラムは ECE プログラムとして有効に機能したものと認められる。全コマの講義に出席し、実習に参加した 3 名が ECE プログラム認定証の授与の対象とされており、ナノエレ ECE プログラム推進委員会において承認され次第、平成 25 年 3 月にさかのぼって ECE プログラム認定証の授与することとする。

b) 平成 25 年度以降の計画

平成 22 年度からナノテク製造中核人材の養成プログラムをナノエレクトロニクス ECE プログラムとして実施してきたが、平成 25 年度以降には、これを発展させて TIA (Tsukuba Innovation Arena)-nano と筑波大による活動に拡大する予定であることが、資料 18-4、18-5 を用いて、堀内幹事から紹介された。博士前期及び後期課程学生を主たる対象とするプログラムで、ナノエレコースとパワエレコースがある。このほか、ナノグリーンコースも計画されている。ただし、学会を基本とする技術者教育をベースとしてきた ECE とは異なり、筑波大学での単位認定をベースとするプログラムであることから、今後、どのような枠組みの下で TIA-nano と筑波大による連携プログラムに ECE プログラム委員会が協力していくことが可能かを検討する必要がある。これについては、横山幹事と持田幹事が打ち合わせることとする。

(2) 先端計測とナノ物質 ECE プログラム

a) 平成 24 年度の実施状況

長井幹事から、資料 18-6 を用いて、平成 24 年度環境とエネルギー材料 ECE プログラムが物質・材料研究機構が日本工学会との共催、総合工学振興財団との協賛として平成 24 年 5 月 25 日～平成 25 年 3 月 22 日に実施されたことが報告された。講義参加者は 30 名程度であり、このうち、ゼミ参加者は 20 名程度であった。平成 25 年 5 月上旬に予定されている物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会において、ゼミ評価、最終レポート、出席率を総合評価して ECE プログラム認定証授与者を決定予定である。

b) 平成 25 年度の実施予定

基本的には平成 24 年度の方針を踏襲し、平成 25 年 5 月の開講を目指して準備中である。国土強靱化に資する材料技術 ECE プログラムとして、平成 25 年度、26 年度の 2 カ年にわたって継続させる予定とされている。平成 25 年 5 月に開催予定の物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会において詳細を決定予定である。

(3) SICE 続プロセス塾

奥津良之委員が欠席のため、次回に審議する予定である。

5) 平成24年度CPD協議会総会及びシンポジウムにおける報告

平成 24 年度 CPD 協議会総会及びシンポジウムが平成 25 年 5 月 14 日(火)13:30-19:00 に東京理科大森戸記念館 1F 第一フォーラムで開催される。総会では CPD ワーキンググループとともに ECE プログラム委員会から平成 24 年度事業報告及び平成 25 年度事業計画の報告が 30 分間で求められているため、ECE プログラム委員会からは、以下の要領で報告することとする。

(1) ECE 新報告書(平成 25 年 3 月)の報告：川島幹事長、10 分(全般)、但田幹事、5 分(目指すべき方向)

(2) ナノエレECE：秦幹事、5 分(H24 年度の成果報告を基本とし、平成 25 年度については、どのような枠組みで ECE プログラム委員会として取り組むかは検討中という形で紹介する)

(3) 先端計測とナノ物質ECE：長井幹事、5 分

(4) SICE 続プロセス塾 ECE：奥津幹事、5 分

総会及びシンポジウムには、ECE プログラム幹事会の幹事はできるだけ参加することとする。

6. その他

次回は平成 25 年 6 月頃とし、別途、日程調整の上、決定する。